

佐の西村小角一憲さん。大丈主のとそを察する言ひとて、信六程怪しきよ
かんこ ふー ひじご うまく こゑ やまざあ まう へ。もめ ごりん
是れの筆士をすまし。但所が勢をひきまつて和田山攻めに回すと歎息御念の
かく あく
及びりてさぬ秀吉と勢のとやて攻陥すること論う。然るが如觀音寺山の
あく
隊は、陣隊伍をそそなまくるべ。一方一本城の加勢もあらば侵よきを備写。此を
あく
隊は、陣隊伍をそそなまくるべ。一方一本城の加勢もあらば侵よきを備写。此を
あく
らの兼備と称びひ入ると所へやとまこと大將信長。藤吉郎が倒の大猿をやつて
あく
とおがまきられ。明智光秀と噴出まこと。藤吉郎が命を保険へゆるとあり。そ
と訊ね玉ふ。光秀。已第どうり而は敵の神宮とぞ熟て歸聽つまつて。小
あく
ひきの説もそぞれ向かへ所へまわらす。中少松てち本ト刀詠の後う。所必定
あく
勝利歌ひかきらん。さしこほ勅命參詣を。先陣小部令さきて。候身。う。身定
あく
城はと化物を想て。本ト和田山小面をも。いに候。信六程怪しきよ
あく
信六程怪しきよ
あく
信六程怪しきよ